

平成 29 年度 認定こども園 龍谷幼稚園 自己評価

園の教育目標

強く 明るく やさしさを持つ子に育てます

「一人ひとりを大切にする」「ダメな子は一人もいません」「みんなちがってみんないい」
～ この3つを柱とし、自己肯定感・自尊感情を持てる子に ～

- ・浄土真宗まことの保育を基軸とし、心の優しい思いやりのある仏の子の育成を目指す
- ・仏参を通して心を落ち着け、静かにおはなしを聞く姿勢を身につける
- ・外遊びを中心とした体力作りや、畑を耕して作物を収穫する喜びを体験し心の豊かさを養う

評価基準	A	はい
	B	大体あてはまる
	C	あまりあてはまらない
	D	いいえ

I 保育の計画性

評価内容	評価
1. 園の教育方針・目標の理解	
○園の教育理念や教育方針を理解している	A
○園の教育方針に共感している	A
○園の方針、園長の考えについて園長や教職員と話し合っている	A
○園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる	B
2. 幼児教育要領・保育指針の理解	
○幼児教育要領・保育指針を理解していると思う	B
○幼児教育要領・保育指針について、園長や教職員と話し合っている	B
○幼児教育要領・保育指針について、幼児の姿や環境の構成、教諭の関わりなど、具体的な事例を想起できる	B

3. 教育課程の編成	
○園の教育課程は、幼稚園の教育要領の精神をふまえ園の教育理念・教育方針にしたがい編成している	A
○園の教育課程を理解していると思う	B
○園の教育課程をもとに、保育の計画をたてている	A
○園の教育課程は園長が中心となり、教職員と協力しあって編成している	A
○園の教育課程は社会状況や子どもの実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている	B
4. 指導計画の作成	
○園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている	A
○指導計画は教育要領、教育課程、用事の実態などをもとに考えて作成している	A
○指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している	A
○長期の指導計画はマンネリ化しないよう常に見直しを行い、幼児の実態や状況の変化に対応できるように作成している	B
○短期の指導計画は子どもの実態にあわせて、自由に変更できるような順応性のあるものになっている	A
○指導計画は総合的な活動ができるよう考慮して作成している	B
○幼児の生活が豊かになるような行事を幼児の実態に合わせて精選している	B
5. 環境の構成	
○安全で清潔感のある環境構成をしている	A
○指導計画に基づき、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている	B
○幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている	A
○幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている	B
○遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している	B

○楽しい雰囲気の中で安心して遊び込める環境構成をしている	A
○幼児の動線、目線に配慮した環境構成をしている	B
○幼児の活動が、より豊かになるように活動の展開に応じて環境を再構成している	B
○幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示を考えている	A
○教諭の願いや意図を見通して環境構成をしている	A
○幼児の発達や生活を見通して環境構成している	A
○季節の変化に応じた環境構成をしている	A
○異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	A
6. 保育と計画の評価・反省	
○自分の保育と計画の評価・反省は行うようにしている	A
○評価・反省は観点を定めて行っている	B
○自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に生かせるように行っている	A
○自分の保育を他の教諭たちにも見てもらい、それをもとに検討する	B
○互いの保育を見せ合って検討し、評価・反省を加え、子どもの生活と自らの保育につなげている	B

II 保育の在り方、幼児への対応

1. 健康と安全への配慮	
○朝の登園時には特に視診を大切にして、子どもの体調が悪くないか確認している	A
○体調が悪そうなときは静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐ家庭へ連絡している	A
○怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行っている	A
○万一、事故や怪我が発生した場合は、園長に報告し保護者に連絡を取り、医師に見てもらするなど適切な処置を行っている	A

○園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険ではないかなどを常に観察している	B
○危険の予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている	B
2. 幼児のみとりと理解	
○一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	A
○幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている	A
○幼児同士の関わりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている	B
○見えないところで活動している幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる	B
○一人ひとりの幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる	B
○幼児のこれまでの姿、今の姿から、これからの活動をある程度予想することができる	B
○個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持って理解できる	B
○幼児同士の関わりをの姿をとらえることができる	B
○幼児たちがいま興味や関心を持っていることがわかる	A
○幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている	A
○幼児の理解のために保護者と話し合うことがある	B
○幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している	B
○幼児の姿を多面的にとらえることができる	B
3. 指導と関わり	
<共同作業として>	
○幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている	A
○幼児の気持ちに共感しながら、一緒によく遊んでいる	A
○一人ひとりの幼児の思いを把握して、寄り添いながら関わっている	A

○幼児からのアイデアを汲み取って遊びを深めている	A
<あこがれを形成するモデルとして>	
○「先生のようにやってみたい」と幼児が思うようなモデルとしての姿を心がけている	B
○教諭らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている	B
○幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、関わり方をしないようにしている	A
○善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている	B
<心のよりどころとして>	
○幼児の一人ひとりの、ありのままの姿を受け入れようとしている	A
○幼児とのスキンシップをとるようにしている	A
○幼児一人ひとりのよさを認めるようにしている	A
○幼児の話をよく聞くようにしている	A
<遊びの援助者として>	
○幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している	A
○幼児の年齢に応じた、わかりやすく聞き取りやすい語りかけ方をしている	A
○幼児が行き詰っているときに適切な援助をしている	B
○幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている	A
○幼児をほめたり、励ましたり、めあてがもてるような言葉がけをしている	A
○禁止・命令・行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度はできるだけ控えている	A
○「一人ひとり」と「みんな」の関係を常に考えながら関わっている	A
○幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をしている	B
<その他>	
○幼児の年齢や発達に応じた関わり方をしている	B

○幼児の個性や性格、特徴に応じた関わり方をしている	B
○幼児を無視したり、体罰を加えることは、どのような場合もしていない	A
○幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮して関わっている	B
4. 保育者同士の協力・連携	
○クラスに関係なく、その場にいた教諭が適切な言葉かけや対応をしている	A
○クラスの環境構成などについても、お互いにフランクに意見を交換している	B
○幼児のことについて、常に保育者同士で話し合い、クラス・学年を超えて情報を共有している	A
○教職員全員がすべての幼児について、ある程度理解しているよう様々な工夫をしている	A
○指導上、配慮を必要とする幼児については、園の職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって対応するようにしている	A
○他のクラスや異年齢の幼児たちを触れ合うような様々な工夫をしている	A
○他のクラスや異年齢の幼児たちと関わられるよう、様々な保育の形態を取り入れている	B

Ⅲ 保育者としての資質や能力・良識・適正

1. 専門家としての能力・良識・義務	
<専門家としての能力>	
○幼稚園教諭として専門知識や技術を身につけている	B
○より高度な専門知識や技術を身につけようと研修している	B
○幼児の性格や個性を把握するよう努めている	A
○保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくるよう努めている	B
○仕事の手順をよく考え、能率よく行っている	B
○幼児が考え、感じていることが、ある程度予測できる	B

＜良識とマナー＞	
○保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がけている	B
○幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込まないようにしている	A
○幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにする	A
○朝と帰りの挨拶は明るく親しみを込めてしている	A
○何かをしてもらったら感謝の気持ちを言葉などで表している	A
○園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにする	A
○服装・髪型・身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている	A
＜義務＞	
○自らの健康にも配慮し、爪がのびていないか等、保育をする上での安全性にも気をつけている	A
○子どもと保護者の顔や名前、性格などを覚えている	B
○義務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている	A
○幼稚園の電話やコピー、紙や教材を私用に使っていない	A
○園の重要書類は持ち出していない	A
○教材・教具の管理、点検に気を配っている	B
○クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している	A
○現金の管理は間違いのないように行っている	A
○締め切りのある仕事や提出物は締め切り期日をきちんと守っている	B
○教職員や園の批判を軽はずみにしていない	A
2. 組織の一員としての在り方	
○教職員全員でひとつのチームであることを意識している	A

○会議や打ち合わせは時間を厳守している	A
○他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる	B
○自分の意見と異なる結果となっても議論のうで決定したことには協力し、実行している	A
○会議のときは自分の意見や質問をもって考えている	B
○子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは、園長や主幹に報告・連絡・相談をしている	A
○当番や役割による仕事は確実にやっている	A
○教職員全員と親しく付き合い、偏った人間関係を作っていない	A
○上司の指示・命令には責任を持って実行している	A
○上司や先輩に対しては警護を用いて話している	A
○教職員のプライバシーについても、これを他へ漏らしていない	A
○園に関することについては、みだりに、または不正確なまま他へ話したりしていない	A
3. 保育の楽しみ・喜び	
○幼児と会話をしたり遊んだりすることが好きである	A
○幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる	A
○幼児と一緒に苦しんだり考えたりすることができる	A
○幼児と一緒に生活を創り出すことが楽しい	A
○特に配慮を要する幼児が望ましい方向へと変容していく過程に喜びを感じる	A
4. まわりを感じ取れる感性・アンテナ	
○幼児や教育に関する情報を、たえず捉えようとしている	B
○幼稚園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	B

○幼稚園の仕事のほかに、多様な趣味を持っている	B
○自然に対する感性を持ち、命の尊さを感じている	A
○地域のことに関心がある	B

IV 保護者への対応

1. 情報の発信と受信	
○クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだより等で知らせている	A
○電話、れんらくノートなどで、連絡を行っている	A
○個々の子どもの様子は、直接話したり、電話・れんらくノート等を使って伝え合っている	A
○保育参観や保護者会を開いて、子どもについて・保育について・家庭でのあり方について共通理解を得るように努めている	B
○場合によっては、個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり、保護者と話し合ったりする	B
○いつでも保護者と個別懇談が行えるようにしておく	A
○自分の考えをきちんと話し、保護者の話を心を開いてよく聞く	B
○必要に応じて、動画・写真・イラストなど、様々な方法で、分かりやすく伝える工夫をしている	C
2. 協力と支援	
○保護者からのさまざまな訴え・要望・意見については、安易に受けたり断ったり無視したりせず、園長や主幹に報告や相談をしている	A
○保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの教育的な意義付けを、はっきりさせてからにする	A
○保護者の協力が必要な場合には、園長と協議し、具体的な協力のあり方について保護者と話し合っている	A
3. 守秘義務の遵守	
○保護者の住所・電話番号等、個人情報の管理については円の方針に従っている	A

○個々の子どもの情報は口外していない	A
○保護者・家族の情報は口外していない	A
4. 対応上のマナー・良識	
○正しい日本語・丁寧な言葉と警護を用いて語りかけ、相手の話も落ち着いて、しっかりと聞いている	A
○親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない	A
○電話は、相手が見えないために誤解が生じやすい、手短かに簡潔に要領よく対話することを心がけている	A
○保護者の国籍・思想・宗教により、また子どもの性差・障がい・個性差によって区別・差別していない	A
○長期の欠席や入院等の場合は見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	B
○園のすべての保護者に対し、親しみを込めた挨拶や会話を心がけている	A
○保護者からの依頼や伝言等については、メモをする等きちんと対応している	A
5. クレームへの対処の仕方	
○保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚に話を聞き、園長に連絡・報告・相談している	A
○クレームの内容によっては、教職員全体で検討し、共通理解の上で対応している	A

V 地域の自然や社会との関わり

1. 地域の自然・人々との関わり	
○地域の人々と親しく挨拶や会話を交わしている	B
○地域の自然や、主な施設の場所・交通機関・主な行事について、ある程度理解している	A
○地域の自然や期間を指導計画の中で位置づけて活用している	B
○地域の自然や機関についてマップを作成する等、利用しやすい工夫をしている	C

2. 小学校との連携	
○小学校の教育内容について理解しようとしている	C
○卒園した子どもの情報を得るように努めている	B
○地域の小学校の行事や公開事業に関心を持っている	C
3. 地域への開放と支援	
○地域開放や子育て支援について、具体的な形や内容を理解している	C
○地域開放や子育て支援のあり方について、教職員全体で話し合っている	B

VI 研修と研究

1. 研修・研究への意欲・態度	
○研修会や研究会には自己課題を持って進んで参加している	B
○研修会や研究会に参加する場合は、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている	B
○研修会や研究会では活発に発言している	C
○専門書や専門雑誌を読んでいる	B
○研究保育を参観するときは自分なりの課題を視点を持ってみている	B
○自分の保育については事故課題を持って、計画と反省を行っている	B
○自分の保育のあり方や悩みについて、他の教諭や主幹・園長と話し合っている	A
○他園の見学をしたり、公開保育とみてみたいと思う	A
2. 教諭としての専門性に関する研修・研究	
○子どものみとりと、その内面理解について研修・研究を行っている	B
○指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方に関する研修・研究を行っている	B

○環境構成・再構成のあり方について研修・研究を行っている	B
○指導と関わりのあり方について研修・研究を行っている	B
○自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている	B
○確立された幼児観・保育観について、客観的に見つめるための研修・研究を行っている	B
○保育者同士の協力・連携のあり方について研修・研究を行っている	B
○自らの得意分野を確立するための研修・研究を行っている	B
○良識・常識・義務・マナーなどに関する研修・研究を行っている	B
○保育者への対応のあり方について研修・研究を行っている	B
3. 遊具・教材に関する研修・研究	
○園の遊具や教材について、その特徴や基本的な使い方を知っている	A
○園の遊具や教材について、さまざまな利用方法について研究している	B
○園の遊具や教材について、子どもはどんな使い方をするのか予測できる	B
○園の遊具や教材について、どのような使い方が危険かわかる	A
4. 園内の環境に関する研修・研究	
○園舎の構造が持つ特質が、幼児にとってどのような教育的な意味を持つかについて理解している	B
○園庭や農作栽培地・砂場・通路・隠れ場所などの位置・広さなどが幼児にとってどのような教育的な意味を持つかを理解し、保育に活かしている	B
○園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、保育に活かしている	B
○園内の環境を、いくつかのまとまりや関連性を持たせて保育の計画・実践に活かすことができる	B
5. 今日的課題に関する研修・研究	
○子どもをとりまく様々な状況が変化してきていることについて学習し、何が問題であるか、背景・原因・実態はどうであるかについて理解したり学習したりしている	B

○アレルギー・自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解している	B
○障がいのある幼児に対応する保育のあり方を学習している	B
○預かり保育や子育て支援のあり方・考え方について学習している	B
○チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している	B
○幼少連携について、その意義やあり方について研修・研究している	B
○危機管理について、現状やあり方について研修・研究している	B
6. 自らを高めるための学習	
○趣味・人との関わりなど、うるおいのある生活を心がけている	A
○保育の専門知識や技能の他に、趣味や読書・ボランティア活動にも関心がある	B
○尊敬する人の話は是非聞きたい	A
○いろいろな人と意見交換し合いたい	A

研修会への参加

新任研修会（道南私幼連合会）・道南ブロック大会（北私幼）・浄土真宗 まことの保育全国大会
 北海道仏教保育協会函館大会・函館仏教保育協会全体研修会・認定こども園ステップアップ研修Ⅰ
 北海道私立幼稚園冬季教員研修会

財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると考える